

令和5年度第1回新居浜市地域コミュニティ再生検討委員会会議録

- 日 時 令和5年9月27日（水）18時30分から19時20分
- 場 所 新居浜市役所3階応接会議室
- 出席委員 坂上公三、小西優、馬越健、阿部由美子、大山由美、高橋功、萩尾美保、岡熙美、真鍋憲正、久保善嗣、近藤英之、高橋周平
- 欠席委員 井川昭二、大福瑞紀
- 事務局職員等出席者
市民環境部長 長井秀旗、市民環境部総括次長兼地域コミュニティ課長 藤田清純、副課長 秦正道、副課長 小野崇彦、教育委員会事務局総括次長兼社会教育課長 竹林栄一
- 傍聴人数 0人

次第 1. 委員長あいさつ

市民環境部長あいさつ

2. 議事

- (1) 協議会型地域運営組織モデル事業の現状と評価について
- (2) 地域活動の参画、参加について

委員長	<p>まず、議事の1番目の「協議会型地域運営組織モデル事業の現状と評価について」、事務局から説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>協議会型地域運営組織モデル事業の現状と評価について説明する。</p> <p>まず、宮西校区、中萩校区の2校区の活動状況と評価についてである。</p> <p>まず、1ページ目、2校区における今年度活動と評価スケジュールである。</p> <p>令和3、4年度において2校区では、今後のまちづくり計画と組織づくりに取り組み、今年3月には2校区それぞれで設立総会を開催し、新しい地域運営組織が設立され、4月からまちづくり計画に沿った事業や活動を開始している。担当課としても、短期間ではあるが、現時点での2校区での活動状況をとりまとめ、来年度以降の組織づくりの方針に反映させる予定である。</p> <p>2ページ目、宮西校区の組織体系である。左側は従来からある組織を、右側には新しいまちづくり協議会の組織図を示している。組織設立後については、年次計画、予算決算審査など重要事項は年1回開催する総会で決定し、校区の活動や事業はまちづくり協議会の役員会、専門部会で協議されるようになる。宮西では専門部会を4つの部会に分け、各分野事業の具体的内容を協議し、役員会では部会ごとの意見や報告について全体調整を行っている。</p> <p>また、従来の社会福祉協議会支部の活動は支え合い部会が引き継ぐ形となっている。</p> <p>3ページ、ここからは、項目ごとの現状と評価である。</p> <p>1つ目が「総会、役員会、専門部会等の組織体制」である。</p> <p>校区全体の活動はこれまで公民館運営審議会で協議され、校区連合自治会が主な活動主体となっていた。まちづくり協議会の目的達成のために、総会、役員会、専門部会の各会が有機的な役割を果たしていくとともに、組織全体での情報共有を行うことが目標と考える。現状では、新たに校区活動を協議する場が組織されたことにより、地域の各種団体間の情報・意思の共有がされており、各会の機能は十分果たせていると思われる。専門部会には自治会青年団やPTA役員等の参画もあるが、今後は情報発信を通じていかにPTA等若年世代の参画を促進させていくかが重要である。組織事務局は公民館職員が担っているが、これまでの公民館業務に加え協議会の事務、情報発信、まちづくり活動の実施準備など職員の負担が増えており、職員体制の見直し強化が必要と考えている。</p> <p>4ページ、2つ目は「地域の課題解決」である。</p> <p>これまでは、校区連合自治会を中心に地域で意欲的に取り組む各事業等を実施してきたが、今後は、準備会で考えた「まちづくり計画」に沿った取り組みについて、連合自治会をはじめ各団体が協力しながら地域の課題を解決していくこととしている。</p>

今年度は、校区防災訓練の開催、子どもや高齢者の居場所づくり、環境美化活動など従来からの基礎的な活動を中心ではあるが、組織の成熟化により、例えば、個別避難計画の作成、独居高齢者対策、地域交通対策など、より現実的な地域の課題解決の取り組みが期待される。

地域課題の解決の取組事例として、5ページでは宮西校区での「ひまわり組」の取り組み、6ページでは中萩校区での「楽しいごみ拾い」事業を掲載している。こういったいくつもの事業実施が地域課題の解決につながっていくものとする。

7ページ、3つ目は「地域住民等のまちづくり活動への参画、参加」である。

これまで校区活動については、自治会員の参加、参画が主となっているが、今後は、地域運営組織による取り組みを通じ、地域住民、事業所、各種団体の方のまちづくり活動への参画、参加を促進していくことを目標としている。現時点では活動を開始したところであり、非自治会員や若い世代の方の参画、参加につながっている結果は見えていないが、公民館講座では館報の全戸配布により1、2割程度申込者が増加したり、また、中学生との交流については、放課後子ども教室、花いっぱい運動などボランティア参加者の増加、地域運営組織と中学生との意見交換会の実施など、参画促進につながっている。

8ページ、4つ目は「地域住民等の交流」である。

コロナ禍でここ数年間は交流事業が開催できなかったが、今年6月に中萩校区では交流事業としてホテル祭りを実施している。地域住民等の交流、校区活動への新たな参加者増、当該事業による自己財源確保の効果もあった。SNSなど新たな情報発信の取組、新規のサロン事業や校区交流イベントの開催により、さらなる交流促進、地域の活性化につなげていくこととしている。

9ページ、5つ目は「各種団体や事業所との新たな連携」である。

これまでも、文化祭など校区イベント時では校区内の団体間での協力体制はあったが、地域運営組織による取り組みを通じ、各種団体間連携、事業所との新たな連携を創出することを目的としている。現状では、協議会の会議の場が増えたことにより、各種団体同士で協力できる体制は整っており、結果として各事業実施段階で協力、連携の効果がみられる。今後、事業所等とのコラボ事業等の企画、実施により新たな連携を創出していくことが期待される。

6つ目は「地域住民や全市への情報発信」である。

これまでの地域への情報発信ツールとしては、自治会員への公民館報配布が主であった。現在、まちづくり協議会による地域情報誌の作成、館報の全

	<p>戸配布、ホームページやSNS等による情報伝達ツール活用により、本格的に取り組みを開始したところである。地域運営組織の認知度はまだまだ低調であるため、継続的に情報を発信しつつ、まちづくり活動への参画促進を図っていくこととしている。</p> <p>11ページ、7つ目は自己財源の確保である。</p> <p>これまで、校区活動における自主財源は、自治会からの負担金や社会福祉協議会会費のみであった。地域運営組織の活動は非自治会員も対象にしていることから、自治会からの負担金徴収については、両校区ともに今後は自治会からの負担金に依存しない方向で協議が進められている。今年度から宮西校区では賛助会員の募集を開始し、中萩校区ではホームページでの広告募集を始めたところであり、今後さらなる自己財源を増やす取り組みを行っていく必要がある。</p> <p>その他の成果や課題として、地域運営組織設立及び計画づくりにおけるノウハウ、行政の今後の役割、既存事業の見直しなど記載の項目が挙げられる。</p> <p>次に、資料2であるが、地域運営組織への移行変化を項目ごとに取りまとめているので、ご参考にしていただきたい。</p> <p>公民館報を全戸に配布するということだが、今現在、浮島校区は、区長宅に自治会員数の館報が届き、区長が市政だよりと館報を一緒に配っているが、全戸配布については自治会の方は納得しているのか。</p> <p>2校区以外は、同じような形で、区長さんや会長さんを通じて、市政だより、館報、それ以外の市からの依頼書類や市情報などを届けていただいている。2校区については、まちづくり協議会から民間タウン情報誌に等に配布委託料を支払い全世帯にお届けしている状況である。</p> <p>地域運営組織に移行した場合は、浮島校区もそういったやり方になるのか。</p> <p>配布方法は、地域で考えていただくようになるが、地域情報を一人でも多くの方に届けることができればよいと考えている。</p> <p>それは理解しているが、最近、やはり自治会を脱退する人が年々増えているので、その点をどういうふうに解消するかということが優先問題ではないかと思う。</p> <p>自治会加入対策については、市が事務局となり連合自治会が主となり実施している。新組織では、自治会員を増やすことが主な目的ではなく、地域の団体が協力して事業を実施していくということを目的としている。</p> <p>自治会に入っていない人は、公民館に直接出向き、市政だよりを取りに来ている。</p> <p>今年1月1日現在で、自治会加入率は全体で56パーセントとなっており、全体世帯の約半数強の方が自治会に加入している状況である。</p>
委員	
事務局	

	<p>これは市政だよりの配布も加味された加入率となっており、56パーセントの世帯にしか届いてない状況である。あとは、公民館や公共施設まで取りに来ていただいております、新居浜市としても、市政だよりの配布を今後どうしていくのかについては別問題として考えていかなければいけない。</p> <p>自治会加入率については、以前は80パーセント代であったが、現在は56パーセントまで低下し、年々下がってきている状況であるため、加入率を回復していくことを目指すところではあるが、今の若い世代の方の考え方や社会情勢などを考えるとなかなか難しい課題である。そういった状況を踏まえ、地域運営組織の取り組みにより、自治会員や非自治会員という区分ではなく、みんなで協力し合いながら、課題を解決していく考え方である。宮西校区や中萩校区では、地域で協議した上で、自治会員だけでなく公民館報やまちづくり情報誌を全戸に配布している。今はまだ2校区しか組織ができていないが、考え方としては地域の情報を皆さんに届けながら、まちづくりを行っていくことを考えている。</p>
委員	<p>自己財源について、今後は賛助会員に会費を募っていくということだが、現状での実績はどうか。</p>
委員長	<p>宮西校区では、賛助会員の募集のお願いについては、住友化学や住友金属 鉦山等々の企業が立地しているので、地元企業に新組織のパンフレットを持って行きお願いしている状況である。</p>
委員	<p>宮西校区をはじめ地元企業さんが多数立地している校区は、賛助会費の可能性は高いと思うが、地元企業が少ない校区は自主財源の確保がなかなか難しいと思われる。</p>
事務局	<p>中萩校区では、今年度についても単位自治会から校区連合自治会への負担金を継続している。この地域運営組織の考え方は、非自治会員や自治会員の区別がない取り組みであるため、自治会の方だけが校区への負担金を支出することについては説明しづらいところがある。その辺りは中萩校区でもいろいろと協議されており、大きな自己財源でもあるため、難しい問題であると思われる。単位自治会からの負担金の額は校区によって様々であるため、まちづくりを進めるなかで、それぞれの校区で決定していく必要がある。</p> <p>中萩校区では、現在、ホームページでの広告収入として、地元企業に何社か協賛をいただいている。地元企業としても新しい組織がどういう活動をしているのか分からないところも結構あるため、まずは、地元企業を含め新組織の取り組みを周知しながら、徐々に自己財源を増やしていく活動を進めていただいている。</p>
委員	<p>全国平均の自治会加入率は74パーセントと聞いており、自治会員の算定の仕方も違うとは思いますが、新居浜市は56パーセントで、全国平均と比較す</p>

	<p>ると低い状況である。防災に関するアンケート結果でも、やはり若い人も防災に関しては興味があると思われるので、自治会員を増やす一つとして、皆さんに興味を持ってもらえる分野など周知していく方法を考えればもっと素直に入りやすいのかもしれない。</p> <p>幼稚園や保育園の保護者の中には自治会に入っていない方もいるので、一つの周知の方法として、そういった保護者の方等の会議でお知らせすることは有効であると思われる。</p>
委員	<p>まちづくりの関係では 各種団体で組織されるということは理解している。宮西校区及び中萩校区の老人会は、上部団体である市老人クラブ連合会を脱退して、まちづくりに入っているが、その辺について募集の方法をどうされているのか。市老人クラブ連合会そのものの存在意義がなくなってしまうのではないかと危惧している。</p>
事務局	<p>地域では、民生児童委員協議会など様々団体があり、他校区での横の繋がりの組織はあるが、行政としても市連合会を脱退しまちづくり組織として活動を行ってくださいという説明は行っていない。</p>
委員	<p>2校区では、市連合会を脱退して地域運営組織として活動を行っている。今後、地域運営組織の取り組みを他の校区で広げていくにあたって、順々に市連合会を脱退していくことは困るので、行政からもきちんとした説明をお願いしたい。</p>
委員長	<p>続きまして、協議内容の2番目、地域課題の参加についてです。</p> <p>地域活動への住民参加の取り組みについて、自治会だけではなく、地域内の様々な関係団体や地域住民の方に参加、参画していただきながら、地域課題の解決に向けた取り組みを実践していくこと、特に女性や若い世代の方がより一層参加、参加していただけるような取り組みが必要と思われます。モデル校区における取り組み状況について、事務局から説明いたしますので、後ほど皆様から 忌憚のないご意見を伺いたいと思います。</p>
事務局	<p>事務局から説明をお願いします。</p> <p>資料3において、2校区の取り組み状況について説明する。</p> <p>(1) 多様な情報ツールによる発信、参加呼びかけ</p> <p>地域運営組織の活動や取り組みについては、できるだけ多くの地域住民の方に知ってもらえるように、まちづくり通信や館報の全戸配布、組織専用ホームページへの情報掲載、公式LINEによる会議参加の呼びかけ、インスタグラム等SNSでの活動PRなどを実施している。</p> <p>(2) 参加しやすい雰囲気づくり</p> <p>専門部会への参加については、誰でも自由に参加できるように呼びかけ、会議は、自由に意見を発言できるような雰囲気となるよう、心がけていただ</p>

	<p>いている。日中仕事に出かけている現役世代の方は、活動に関わる時間が取れない、校区の活動に関心がないなど、活動の不参加につながっていると考えられる。事業については誰でも、いつでも参加可能なことや、興味のある活動だけ参加してもらえようSNS等で呼びかけしている。</p> <p>(3) 子どもも参加できる事業をきっかけとした現役世代の担い手の確保</p> <p>放課後子ども教室では、地域内の各種団体が協力して、遊びの中で子どもたちが自然体験や伝統文化を学習する事業を開催したり、子どもが楽しむことができるイベント等を開催している。校区防災訓練では、地域の大人だけではなく、地元中学生がボランティアで訓練参加者への講師役を担ったり、宮西校区では小学校での防災参観授業も計画されている。また、中萩校区では、地域の方が地元中学校に出向き、中学生との意見交換を行い、実際に中学生が企画する事業実施につなげている。子どもが地域の活動に参加することにより、PTAを含め親世代も地域の活動に関心をもってもらうことで、参加、参画者を増やし、担い手確保につなげていくことが期待される。</p>
委員長	<p>事務局より、モデル校区における地域活動への参画、参加における取り組み状況について説明があったが、委員の皆様から、取り組みの感想、新たな取り組みのアイデア、その他、ご助言やご意見などがございましたらご発言ください。</p>
委員	<p>多様な情報ツールによる発信、参加呼び掛けということで、ホームページやSNSを使って情報発信を行っているが、他の校区に拡大していく中で、1つのホームページからいろんな校区活動にリンクしていく方が市民の方にとって、わかりやすいと思われるが、どのように考えているのか。</p>
事務局	<p>業務の効率化や経費削減という点で、ホームページの集約化により、情報が見やすくなったり、わかりやすくなる効果があると思うので、今後検討していきたい。</p>
委員	<p>放課後子ども教室は放課後児童クラブとは別なのか。</p>
事務局	<p>中萩校区は、月に2回、土曜日午前中に開催している。子供たちの参加を募り、地域の方や公民館職員が関わることになるが、芋ほりや工作など体験的な学習を地域の方と一緒に体験している。</p>
委員	<p>自治会加入率は五十数パーセントの状況で、広報物は自治会の区長さんに配っていただいております、自治会員とそれ以外の方に配らなければいけない。地域によっては数十件分を追加配布しなければいけないところもあると思われる。アパートで1人暮らしの方、転勤してきた方、地域に根差していない方も多と思われるので、会やイベントへの参加については、常時自由に参加可能なものと期間限定でしか参加できないものも周知してもいいと思われる。</p>

	<p>中学生の意見交換会について説明があったが、中学生の意見では、子供の声と大人の声と、両方の声が聞こえてくる。1つのことに取り組むにしても、将来のことを考える場面では、「今自分だったらこうします。」や、「こんなことで助かりました。」という子もいれば、「自分はこういったことで、助けてあげたい。」とか言う子もいるので、両方の立場で、中学生との意見交換会の実施はいいと思われる。</p> <p>学校と地域との連携について、泉川校区では、防災訓練や避難所運営など全て地域の方がやってくれており、教員は生徒のグループ分け程度のことしかやっていない。教員の立場からすると、中学生との事業実施の段取りを学校任せになってしまうと、教員の負担が増えてしまうため、地域の方が多数参加してくれると、お互いにいい関係になるのではないかと思われる。</p> <p>また、ホームページについてであるが、中学校のホームページの更新では以前は毎日更新していたが、最近は週に1回更新している。新たにホームページをつくと、ちょっとしたことであるが、更新業務が新たに増えることになる。資料には、課題として公民館職員の仕事が増えると記載されていたが、組織の事務局にはやはり人が必要ではないかと思われる。</p> <p>子供の居場所づくりについては平日、学校に行きにくい子どもを対象に、公民館で実施されていることは、大変ありがたいことだと思う。引きこもったままで半年かかってしまうケースもあるため、居場所づくりの活動を継続していただけると、大変ありがたい。</p> <p>2校区では活動を開始されたばかりであるので、まだまだ見えない部分がある。</p> <p>確かに、まだ始まったばかりであるから、見えてこない部分はあるものの、文化祭や芸能祭は中学生主体でやってもらうということで、昨年度から取り組んでいる。また、校区防災訓練などいろんな行事で、小学校、中学校の子どもたちと一緒に実施している。先日の夏祭りでは、PTAを主体として実施し、人員が足りない時はみんなで協力して行い、小学校の先生にも後援していただいた。</p> <p>先ほど久保委員が言われたように、小学生を含め中学生は面白い意見をもっている。ただし、我々の校区でいうと中学校は川東中学校となるが、1中学校に複数の小学校がある場合は、なかなか中学生と関わりにくい面もある。</p> <p>次回の検討委員会については、本検討事項についてご協議案件があれば開催を予定したいと考えている。</p> <p>他に意見がなければ、以上で令和5年度第1回新居浜市地域コミュニティ再生検討委員会を終了する。</p>
委員	
委員長	
委員	
委員長	